

消防車が
大好きな少年だった

豊間 勇 作

(消防士・28歳)

子供のころよく父の仕事場に弁当を持って行ったものだった。男の子の多くが消防自動車が好きのように、私にもあの風を切って走る真赤な車、そして勇氣ある消防員は、それがまして父の姿と重なると、なによりも格好いい仕事に見えた。

今の仕事は主にポンプ車の運転と機械整備。端で見るほど格好いい仕事でもなく、初めの頃は焼跡の惨状に飯が喉を通らなかつたこともある。今一番の安らぎは、二人の娘（一歳と四歳）と遊ぶこと。そしてうれしいことは、少しでも困っている人の役に立ったときだ。



母はよき友だち

町井 一 美

(美容師・24歳)

美容師は“人の心を結う”——私がこの仕事を志そうとしたときに、母に言われたこの言葉は、いつも私の心の中で響いています。

子供のころから母が仕事をするかたわらで遊び育ったせいでしょか、美容師になるのが当然のことだと思いました。流行の移り変わりの激しいこの仕事にあって、母は先生であると同時に学びそして相談しあえるよき友です。

毎日いろんな人に巡り逢えるのも楽しみのひとつ。しかし友だちが次々と結婚していくのを見るにつけ、私も——と考えています。やさしくてちょっぴりお酒の飲める人、募集中です。



見様見まねで曲げわっぱ作り

浅井 幸 裕

(曲げわっぱ職人・30歳)

55年、浜松市から親父に呼び戻されて家事を継いだ。ちょうど曲げわっぱが国の伝産法の指定を受けたときだった。小さいころから杉の香の中で育ったし、こういう仕事は好きだったから別に苦にもならなかった。初めは親父や職人の作ったものを見て作り始めたが失敗作もずいぶん多かった。自分なりに工夫してこのごろやっと自分の思うものが作れるようになった。

今、曲げわっぱの売れ行きは横バイ状態。このため機械でできる工程は機械化してコストの低い新製品を開発することと、伝統のよさを生かした製品の両面でもっと伸ばしていこうと思っている。



市文化財に
仏像2体を指定

市教育委員会では、十二月十日付で市の有形文化財に仏像二体を指定しました。指定された仏像は、玉林寺（幸町）の延命地藏菩薩と花岡繁沢の虚空蔵菩薩で、仏像の指定としては初めてのものです。

▼玉林寺「延命地藏菩薩」



室町末期から江戸前期の上方作と言われ、像の高さは四十七・五寸の檜の寄せ木。浅利家三代供養像として安置され、鳳凰山玉林寺奉安の地藏尊に開基、浅利公伝来秘仏……との口伝がある。

▼繁沢大国主神社「虚空蔵菩薩」



室町時代の上方向作といわれ、像の高さは三十一・五寸で青銅製。顔は観音様式で、両手首は鎌倉様式を取り後補されている。像の台は元禄六年（一六九三年）の作で、仙台あたりで作製されたものとみられる。